平成8年1月16日 第三種郵便物認可 発行日：毎週水曜日

発行所：株式会社帝国データバンク
長崎支店 〒850-0032 長崎市興善町2-21 TEL：095-826-9204（代）
佐世保支店 〒857-0042 佐世保市高砂町1-4 TEL：0956-22-0551（代）
（本社） 〒107-8680 東京都港区南青山2-5-20 TEL：03-5775-3000（大代表） URL：https://www.tdb.co.jp
購読料：1年間40,000円（本体価格） 複写転載厳禁 ©TEIKOKU DATABANK,LTD.

Nagasaki

TDB TEIKOKU NEWS weekly

週刊 帝国ニュース 長崎県版

NO.1426 2022
1/5 wed.

CONTENTS

03 新年のごあいさつ
加速化する変化のうねりに
しなやかに適応し、新たな成長へ
株式会社帝国データバンク 代表取締役社長 後藤 信夫

04 令和4年 新年知事あいさつ
長崎県知事 中村 法道 氏

06 新年のごあいさつ
長崎市長 田上 富久 氏

07 令和4年 年頭のごあいさつ
佐世保市長 朝長 則男 氏

08 鼓動
アペシオングループ
株式会社縣北衛生社
代表取締役社長 外間 広一 氏

12 情報部長座談会 －後編－
2021年を振り返る

16 調査員のひとり言

17 特別企画
2022年度の賃上げに関する九州企業の意識アンケート
【賃上げ】45.9%の企業が実施予定、全国平均を下回る
～ 賃上げに前向きな企業は8割を占める ～

東山手十二番館の桜（長崎市）

卓袱料理
ⓒ 長崎県観光連盟

迎春
帝国データバンク
代表取締役社長 後藤 信夫
社員一同

帝国データバンク

鼓動 KODO

アペシオングループ
株式会社縣北衛生社
代表取締役社長
外間 広一 氏

「時代の変化を読む」

会社経営は常に山あり谷あり。どんな企業にも、その会社の行方を左右したエピソードがあります。難局をどのように乗り切ったのか。大きな成功の背景には何があったのか。そこから得た教訓は何なのか――。地元経営者の想いに迫ります。

今回は廃棄物の収集運搬・処理業務を手掛ける株式会社縣北衛生社（長崎県佐世保市）の代表取締役社長外間広一氏です。2021年9月に先代から事業を受け継ぎ、新代表に就任されて、現状に甘んずることなく廃棄物処理業界全体のレベルアップやブランド力向上に取り組んでおられます。

取材/佐世保支店副支店長
池田宣弘、調査課 井上士郎
文 /佐世保支店 副支店長
池田宣弘

外間　広一
そとま　こういち

1989年4月生まれ。ハンガリー国立ペーチ大学に進学。2013年に帰国後、東京都内の会計事務所に勤務したのち、2018年に当社に本格的に勤務。2021年9月に代表取締役社長に就任。

戦後復興期の創業

1953年（昭和28年）に、私の祖父である外間廣太郎が長崎県佐世保市にて個人創業した外間清掃社が当社のはじまりです。当時は戦後復興期の真っ只中で、沖縄県出身の祖父は縁もゆかりもない佐世保市において、この衛生事業に携わっていこうと決意して邁進していたと聞いております。

創業時は、し尿処理を中心とした廃棄物収集を行う営業体制であり、小規模なものであったようです。当時の日本では、し尿処理についての法整備は特にありませんでしたが、戦後の復興期の廃棄物処理の明確なルールがないなか、病気など公衆衛生の観点から法整備が進んでいきました。その後、法整備が進んだことに伴い、周辺の個人経営の衛生業者数社を統合して、し尿くみ取り業などを目的として1964年（昭和39年）10月に、法人設立に至ったと聞いております。

時代の変化への対応

高度経済成長によって国民の生活様式に大きな変化が起こり、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代に入っていきました。さらに、工業化の発展

による公害などが大きな社会問題となったことで清掃法が全面的に改正されていきました。そのなかで、当社も変化に対応し、し尿処理から廃棄物全般を取り扱うようになりましたが、当時はし尿処理は海洋投棄がまだ当たり前の状況でありました。そうしたなか、1986年に創業者の外間廣太郎が急逝したことで、父である外間広志が急遽代表取締役社長に就任することになったのです。

29歳の若さで経営者となった父は、廃棄物に対する規制や法整備により海洋処理が難しくなっていくなかで、当社として自前の処理施設を持つことが必要という考えに至ったようです。廃棄物の処理についてさらなるレベルアップを図っていくために必要なことだと思いを強くし、この業界ではいち早くリサイクルプラントの建設に着手したのです。

レベルアップに伴う困難に立ち向かう

自社のリサイクルプラントを運用して廃棄物を収集し自社で処理する形から、自社以外から受け入れた廃棄物の処理を行う段階まで進め、処理に関してステージアップさせることを検討していました。その後もバブル景気によってさらに廃棄物排出量が増加し、種類もより一層多様化し、時代は廃棄物の排出抑制と分別・再生（再資源化）へと変化してきています。

その後、リサイクルの考え方が広がっていく途上で、各種リサイクル法が制定され循環型社会の形成が必要との考え方が浸透してきました。更なるレベルアップのために当社は自社で収集した廃棄物の処理を行うだけではなく、外部からの受け入れもできる中間処理施設をもつことを決意し、その投資を実施することになりました。そこで、産業廃棄物処理およびバイオマスなど焼却発電などを目的として2007年7月に環境リサイクルエネルギー（株）を設立し、2012年に焼却発電施設を新設、同年9月から試験運転を開始しました。

リサイクル事業所・バイオマス発電所

「現状に満足せず、更なるレベルアップを目指す」

稼働前から廃棄物の受け入れを積極的に募集してきましたが、1日に100tを処理できる施設で大型投資となったため、思うように受入量を確保できませんでした。計画量に達しない稼働状況が続き、償却負担など厳しい運営でのスタートでありました。

近年になり、世界的にも環境問題がクローズアップされていくなか、海外へ運んでの処理が難しくなる環境になってきております。ここへきてようやく国内処理の必要が高まってきたことが、当社への追い風となってきました。

廃棄物処理にかける思い

当初は計画通りに進まない厳しい先行投資となっていましたが、焼却発電施設については、近年ようやくフル稼働ができるようになったばかりか、処理が追いつかない状況となって、現在は2号炉の建設を進めているところです。

そうしたなか、私がこの2021年9月に父から経営を引き継ぎ、当社の代表取締役社長に就任することとなりました。30代前半という、父と同様に若い時期に後を継ぎ、これからまた新たな取り組みを進めていきたいと考えているところです。

「業界全体の活力向上を目指す」

本社事務所

ごみは人間が生活を行う以上は必ず出てくるものであり、私たち人類は豊かな生活を手に入れていますが、反面では資源の枯渇や地球環境の汚染と破壊が大きな問題となっています。廃棄物は、もともと紙が主体であったものから、プラチックごみが出てきて、将来はまた違う廃棄物が出現する可能性があるというように、変化していくものだと考えています。そのため、廃棄物処理のこの業界において、私は今だけを見てはいけない、廃棄物には歴史があり、どう向き合っていくのかを問いかけることが重要だと思っています。そう行動していくことで、当社が廃棄物処理業界のリーディングカンパニーとなることを目指し、当社だけではなく同業界全体の活力向上に貢献できると考えています。

当社は市民生活のサポートを担う使命と責任があると考え、行政と協力しながら社会貢献を果たしていく所存です。

会社概要

アペシオングループ　株式会社縣北衛生社

TDB企業コード：860005781
法人番号：7310001005332
所 在 地：長崎県佐世保市干尽町3-47
電　　話：0956-31-4277
設　　立：1964年（昭和39年）10月
事業内容：廃棄物・し尿運搬処理
U R L：https://www.apesion.com/